

## イマカナ

## 支え合い

きつかけはさまざま

延べ58人が地域で活動

〈2〉

## 市民後見人

人に寄り添う

今回は、家族の介護や地域で貢献したいという思いをきつかけに横浜市市民後見人となり、活躍をしている方々を紹介합니다。

「親の介護経験から、いずれはわが身という思いで、元気なうちに社会貢献できることはないかと模索していました。その時に会社員時代の仲間が成年後見に関わる活動をしていくことから、興味を抱き、横浜市市民後見人養成課程に応募しました」と語るのは、早川紀雄さん(70代)です。

「親の介護の時は家族としての思いで対応したことが多くありましたが、第三者の後見人としては、本人の意思に寄り添う難しさと大切さを実感することができました」と、充実した表情です。

瀧澤純子さん(40代)は「障害のある子の親として、多くの方に支えられてきました。今度は自分が地域に貢献できることはないかと探していたところ、市民後見人の存在を知り、まずはやってみようという思いで応募しました」とのことです。「後見人として活動する中で、人に寄り添う責任の重さと同時に、やりがいを感じました」と、語

ってくれました。

そして、古賀則介さん(70代)は「金融関係の営業職を定年退職後、地域にはどのような人がいて、何が起きているのかを考えるようになりました。最初は興味本位から応募しましたが、市民後見人となった今では、本人の意思を受け止め、関わることで得られるものは大きいと感じています。これからも新たな世界を知りたいという意欲を持ち続けたいです」と力強く語っています。

このようにきつかけはさまざまながらも、市民後見人は本人への寄り添いを大切に活動しています。市では2012年から市民後見人の養成を進め、これまでに延べ58人(19年8月末現在)が活動しています。

(随時掲載)